

## 美術館評価とは

美術館が当該美術館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき美術館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立美術館では、美術館評価の実施に向け検討・準備を進め、平成 27 年度実績の評価については試行的に実施し、平成 28 年度実績の評価から本格実施に移行しました。

## 評価の方法

当館による自己評価と栃木県立美術館評議員会による外部評価があります。

- ・自己評価は、目標の達成状況について定量的評価及び定性的評価を行うものです。
- ・外部評価は、自己評価結果の妥当性を検証し、今後のあり方に関し助言を行うものです。

1 定量的評価

達成度 A : 100% B : 99~70% C : 70%未満

項目	評価点	目標値 a	達成度 (b/a) %	評価	備考
		達成値 b			
1 調査研究関係	① 研究公開と 社会貢献回数	40	122.5%	A	
		49			
2 収集・保存関係	② 収集作品件数	19	152.6%	A	
		29			
	③ 収集作品の貸出点数	70	65.7%	C	
		46			
3 展覧会関係	④ 企画展開催回数	4	100.0%	A	
		4			
	⑤ 企画展関連イベント回数	20	105.0%	A	
		21			
⑥ 常設展展示替回数	4	100.0%	A		
	4				
⑦ アートリンク実施回数	2	150.0%	A		
	3				
4 普及教育関係	⑧ アートクルーズ来館学校 数	20	45.0%	C	
		9			
	⑨ イベント開催回数	12	133.3%	A	毎月1回以上
16					
⑩ 県教委・あーと初等教育 関係団体との会議	3	100.0%	A		
	3				
5 施設設備関係	⑪ 利便性向上等のための改 善箇所数	2	100.0%	A	
		2			
6 新たな取組関係	⑫ 新規に取組んだ事業数	1	400.0%	A	
		4			
⑬ ボランティア増加人数	10	210.0%	A		
	21				
7 広報関係	⑭ 収集作品情報の新規提供 数	12	108.3%	A	毎月1回以上
		13			
	⑮ ホームページアクセス件 数	200,000	141.7%	A	
		283,424			
⑯ SNSによる情報提供回数	60	251.7%	A	毎週1回以上	
	151				
⑰ 年度及び企画展毎の広報 会議回数	5	100.0%	A		
	5				
8 入館者数関係	⑱ 5カ年間の入館者数	275,000	84.9%	B	企画展及び常 設展の観覧者 数合計
	(単年度目安)	55,000			
		46,704			
9 友の会・ショップ・レストラン 関係	⑲ 友の会・ショップとの連 絡会議回数	2	300.0%	A	
		6			
⑳ レストラン企画関連ラン チ提供回数	4	125.0%	A		
	5				

## 2 定性的評価

達成度 A : 91%以上 B : 90~70% C : 70%未満

評価項目 (チェック項目数)	チェック項目数×3 (a)	達成度 (b/a) %	評価	備考
	◎×3+○×2+△×1 (b)			
1 館運営全般 (9)	27	96.3%	A	
	26			
2 調査研究関係 (5)	15	100.0%	A	
	15			
3 収集保存関係 (7)	21	81.0%	B	
	17			
4 展覧会関係 (9)	27	88.9%	B	
	24			
5 普及教育関係 (10)	30	93.3%	A	
	28			
6 施設管理 (5)	15	93.3%	A	
	14			
7 中核機能関係 (6)	18	94.4%	A	
	17			
8 新たな取組関係 (6)	18	88.9%	B	
	16			
9 広報関係等 (7)	21	90.5%	B	
	19			
10 友の会関係等 (6)	18	88.9%	B	
	16			

### 定量的評価

定量的評価は、評価項目ごとに近年の実績の平均的数値等を踏まえて目標値を設定し、目標値に対する当該年度の実績値の割合（達成度）で評価したものである。

A : 達成度 100%以上、B : 達成度 99~70%、C : 達成度 70%未満

### 定性的評価

定性的評価は、評価項目（チェック項目）ごとに館員がその意識や姿勢等を自己評価し、その評価を、担当課長→副館長→館長の順に検討した上で最終評価としたものを点数化し、各項目の満点数に対する当該年度の得点数の割合で評価したものである。

A : 達成度 91%以上、B : 達成度 90~70%、C : 達成度 70%未満

〔◎ : 十分達成できた（3点）、○ : 概ね達成できた（2点）、△ : 達成不十分（1点）〕

### 3 評価結果一覧

区分	A評価	B評価	C評価
定量的評価項目 (20)	17項目	1項目	2項目
定性的評価項目 (10)	5項目	5項目	0項目

### 4 新たに取り組んだ事業等、改善した事業等

概 要	<p>① 開館時間の延長（平成29年12月22日） 仕事帰りに美術鑑賞ができるよう、開館時間を19時まで延長するとともに、宇都宮中央女子高校合唱部による「クリスマス合唱コンサート」を同時開催した。</p> <p>② とちぎ版文化プログラム”リーディングプロジェクト事業” 3館連携事業の共通テーマ「祭」にちなんだコレクション展Ⅰ「<sup>ことほぎ</sup>寿ぎの美術」を開催し、さまざまな寿ぎの意味を読み解きながら、古来の信仰と風習の造形、その「かたち」を楽しめる展示を行った。</p> <p>③ 多言語化に向けた取組 美術館案内パンフレット、屋外看板、ホームページの多言語化に取り組んだ。 主な収蔵品を多言語で紹介するタブレットを整備した。 外国人の意見・感想を聞くために留学生モニターツアーを実施した。</p> <p>④ 若い世代にアピールする取組 とちぎ未来クラブに協力し、出会いサポート事業「アートでハートをキャッチ」を実施した。 学芸員による「美術館の秘密道具発見」のワークショップを実施した。</p>
成 果	<p>① 美術館友の会の法人会員を中心にイベントの周知を図り、会社員や中高生、父母、祖父母などの幅広い年代の来館に繋がった。</p> <p>② 同時期に3館統一テーマで実施したことにより、広く県民の興味を引きつけることができ、文化事業の相乗効果が発揮できた。</p> <p>③ 留学生からの意見を反映させて館内の多言語化に取り組み、外国人来館者の利便性の向上に繋がった。また、留学生には、母国に向けてツアーで発見した“とちぎの魅力”を発信してもらった。</p> <p>④ 今まで対象としたことのない年代に向けたワークショップを企画することができ、ショップ、レストランにも協力を依頼し、全館を上げて新たなファンの獲得に向けた機運が醸成できた。</p>

## 5 自己評価総括

評 価	<p><b>(1) 定量的評価</b></p> <p>◎ 全体の85%にあたる17項目がA評価となったが、「収集作品の貸出点数」と「アートクルーズ来館学校数」の2つの項目はC評価にとどまる結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「収集作品の貸出点数」は46点で目標の66%であった。他館等からの作品貸出申請が少なかったのが要因である。当館での展示予定がない限り、貸出の申請には応じている。</li><li>・ 「アートクルーズ来館学校数」も9校で目標値の45%であった。学校への当該事業の周知の遅れなど、周知時期・方法に問題があった。一方で、自らバスを用意するなど、授業や部活動の一環として来館する学校等を含めると45校あり、学校教育への役割が期待されている。今後は、募集・周知の方法等を改善していく必要がある。</li></ul> <p>◎ 大きく改善された項目に、「収集作品件数」「ボランティア増加人数」「企画展関連イベント回数」「入館者数」がある。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「収集作品件数」は、前年度から作家遺族等の依頼を受け資料の継続調査していたものが、まとめて寄贈されたことにより、栃木県ゆかりの作家の作品を収蔵することができた。(4件→29件)</li><li>・ ボランティアについては、美術に関心が高いシルバー大学の学生に呼びかけたことにより、登録者数が増加した。(3名→21名)</li><li>・ 「企画展関連イベント回数」は、クリスマスコンサートや桜通り散策など新規の企画や、ギャラリートークやゲストギャラリートークの回数を増やしたことによる。イベントへの参加者も多く、参加者の満足度も高かった。(14回→21回)</li><li>・ 入館者数は、46,704人で、前年度(H28:40,167人)比では16%増であり、目標値55,000人に対し85%の実績であった。近現代の洋画の名作100点を展示した「まなざしの洋画史展」において、県内外から多くの美術ファンが訪れ、入館者が7,700人を超えたことが大きな要因である。</li></ul> <p><b>(2) 定性的評価</b></p> <p>◎ A評価が5件、B評価が5件で、H28年度と同様の結果となった。</p> <p>◎ 達成度比率が改善された主な評価項目は、「館運営全般」と「広報関係」、「普及教育」である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「館運営全般」では、評価制度を本格実施したことに伴い、外部評価を含めた結果を当館のホームページで公表した。</li><li>・ 「広報関係」では、報道関係者に積極的に声がけしたことにより、取材につながり、他県からも観覧者を多く呼び込むことができた。</li><li>・ 「普及教育関係」では、職場体験や学芸員実習などを積極的に受入れ、ワー</li></ul>
--------	---

	<p>クシヨップに生徒・学生がボランティア参加するなど、学校との連携を深めることができた。</p> <p>◎ チェック項目の細目で「△：不十分」となった普及教育区分の県教育委員会所管課との意見交換については、組織的な対応ができなかったことが要因である。総合教育センターにおける教員研修での美術館の活用など、学校教育との連携についての検討を進めている。</p> <p><b>【評価総括】</b></p> <p>平成 29 年度は、前年度の定量的評価・定性的評価において不十分であった項目について、それぞれ改善に向けて取り組んだ。</p> <p>定性的評価では、「計画的な収集作品の修復」や、「ボランティアの活用」など、引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、限られた財源の中で新たな事業等にも意欲的に取り組み、また、幅広いファン獲得に向けて努力しており、これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。</p> <p>また、収蔵庫の収蔵スペースの不足や老朽化した施設・設備の計画的な改修など美術館のみでは対応できない大きな課題については、主管課である県民文化課等と協議・連携しながら検討を進めていく必要がある。</p>
<p>課 題</p>	<p><b>【今後の主な課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ より魅力ある展覧会の開催</li> <li>◆ 学校との連携の強化</li> <li>◆ ボランティア活動の活性化</li> <li>◆ 収蔵スペースの確保</li> <li>◆ 老朽化した設備等の計画的整備</li> </ul>
<p>対 応 の 方 向</p>	<p><b>【対応の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 質が高く、多くの県民に感動を与えることができるよう、魅力ある展覧会の開催に努める。また、SNS の効果的な活用や広報対象を絞り込んだ戦略的な広報など情報発信力を強化し、入館者数のなお一層の増加に努めていく。</li> <li>■ 市町や学校教員へ美術館事業を積極的に情報提供し、具体的な連携策について検討を進める。</li> <li>■ ボランティア活動を活性化するために、ボランティアの意向や他館の状況などを踏まえ、活動の幅を広げていく。</li> <li>■ 収蔵庫の保管棚の増設など、収蔵庫における環境改善に努める。</li> <li>■ 老朽化した設備の更新については、必要な調査を行った上で、計画的に整備していくこととする。</li> </ul>

## 6 外部評価

意見等	<p>平成 29 年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。</p> <p>1 既存事業の見直しについて 観覧者増加のための新たな取組も重要だが、美術館本来の機能である作品の収集保存や調査研究にも力を入れられるよう、既存事業の見直しにも取り組むべきである。</p> <p>2 教育部門との連携について 学校教員や保護者、社会教育関係者に、美術館をより身近に感じてもらい、また活用してもらえるよう、学校や教育委員会等の組織と円滑な連携を図るべきである。</p> <p>3 普及教育事業の推進について 美術館に求められるものも時代とともに変わってきている。作品の収集展示のみでなく、若い世代に向けた教育普及事業、とりわけ子供達への事業を推進すべきである。</p>
-----	---

## 定性的評価項目チェックリスト

◎：十分、○：概ねできた、△：不十分

区分	チェック項目	達成度
1 館 運 営 全 般	1 館と本庁主管課との連絡調整を十分に行ったか	◎
	2 定例の課長会議及び学芸会議は開催できたか	◎
	3 突発的な事案に関して、課長会議等は十分に開催できたか	◎
	4 館長、課長等と館員のコミュニケーションは良好だったか	◎
	5 本庁主管課及び全館員が承知する中期・年度計画は策定したか	○
	6 自己評価は実施したか	◎
	7 外部評価は実施したか	◎
	8 栃木県立美術館評議員会の意見等は全館員に周知したか	◎
	9 年報やホームページ等で館の運営状況を公表したか	◎
2 調 査 研 究	1 調査研究内容について学芸課内で情報共有しているか	◎
	2 調査研究予算の獲得について努力をしたか	◎
	3 各学芸員は幅広く見聞を広めているか	◎
	4 県内の現役作家等についての研究にも積極的に対応したか	◎
	5 我が国及び世界の現在の美術状況についても研究しているか	◎
3 収 集 保 存	1 収集方針に沿った収集を行ったか	◎
	2 作品の保存状況等について定期的に点検したか	○
	3 収蔵庫等の温湿度管理は適正に行ったか	○
	4 収集作品の修復は計画的に行ったか	○
	5 収集作品の他館及び県内市町への貸出に前向きに対応したか	◎
	6 寄贈者に対して適切な対応を実践したか	◎
	7 収集に関する情報収集は定期的に行っているか	○
4 展 覧 会	1 企画展・常設展は、計画に近い内容で開催できたか	◎
	2 出品リストは作成・配付したか	◎
	3 音声ガイドは順調に作成・貸出しできたか	◎
	4 図録又は解説のための小冊子等を作成したか	○
	5 展示状況について定期的に点検したか	◎
	6 入館者の鑑賞状況等をチェックし交流等を図ったか	◎
	7 入館者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	○
	8 企画展の自己評価を行い、検証をしたか	◎
	9 オリバラを念頭に置いた展覧会構想の検討を意識していたか	○

5 普及教育	1	イベントの定期的な開催について努力したか	◎
	2	参加者数は満足のいくものだったか	◎
	3	参加者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	◎
	4	各事業では講師等の協力を十分に得ることができたか	◎
	5	団体利用の際にオリエンテーションの実施等に積極的に努めたか	◎
	6	県教育委員会所管課との意見交換等は効果的に実施できたか	△
	7	学校との連携をより深めることができたか	◎
	8	学校の教員向けのイベントは開催したか	◎
	9	障害者の美術鑑賞の研究及び情報収集に努めたか	◎
	10	各事業の振り返りを実施したか	◎
6 施設管理	1	施設の老朽化対策等について改修計画を共有しているか	○
	2	施設設備の危険箇所等の有無について定期的なチェックはしたか	◎
	3	館を挙げての防災訓練を実施したか	◎
	4	施設面での国際化への対応について検討しているか	◎
	5	不慮の事故等に備えての保険には通年で加入したか	◎
7 中核的機能	1	県内の他の美術館・博物館等との積極的な交流を図ったか	◎
	2	市町美術館等の求めに応じた、適切で親身な助言等はできたか	◎
	3	県内外の学会、研究会、委員会等に積極的に貢献したか	◎
	4	栃木県博物館協会の事業等に積極的に貢献したか	○
	5	各種団体等の協力要請に、前向きな対応姿勢を示せたか	◎
	6	学芸員実習生の積極的な受入と適切な指導は図れたか	◎
8 新たな取組	1	館としての新たな取組の模索を常に意識していたか	◎
	2	外部団体等との連携の模索を常に意識していたか	◎
	3	連携による事業化を念頭に外部団体等と接触したか	◎
	4	ボランティアの活用は順調に推移したか	○
	5	ボランティアとの関係性の向上のための積極的な交流に努めたか	○
	6	他館における新たな取組等について情報収集に努めたか	◎
9 広報関係等	1	企画展毎の広報会議の早期開催について努力したか	◎
	2	広報体制を確立し、各自の役割分担が明確になっているか	◎
	3	ホームページ上で、必要に応じたタイムリーな情報提供ができたか	◎
	4	フェイスブック、ツイッターの活用は十分だったか	◎
	5	広報対象毎に戦略的に効果的な広報を行ったか	○
	6	広報は衆目を集めるような魅力的なものにする配慮をしたか	○
	7	報道関係者との交流には積極的に努めたか	◎